

ダブルス3 ペアで全道大会に臨みます

団体での全道出場を果たすことが出来ませんでした…

当番校業務を務めながらの集約大会でした。選手権大会明けからの4日間で、大会運営に向けた準備で目が回るような忙しさでしたが、選手達は本番に向けた最終調整に専念し、それぞれがベストな状態で臨むことが出来ました。また、大会補助生徒としての働きも素晴らしく、スムーズな大会運営を行うことが出来ました。ご協力頂いた事務局の先生方をはじめ、関係各方面の方々に御礼申し上げます。

今年度の大会では、実に3年ぶりに声を出しての応援が解禁となり、個人戦では1ポイント取るたびに選手同士が鼓舞し合い、団体戦ではチームみんなで南商のエール【応援歌】を歌うことができ、充実した大会となりました。

【個人戦結果】 森谷・猪股ペア：第3位 鴨川・今井ペア：第5位 氏家・菅原ペア：第9位

【団体戦結果】 第3位

初日に行われた個人戦では、上記3ペアが全道出場権を獲得することが出来ました。代表決定戦には、南商から3ペアが臨み、最後まで見事に勝ち上がった氏家・菅原ペアはミズノ杯から組み始めたばかりのペアでしたが、本当によく頑張りました。

2日に行われた団体戦では、予選リーグBブロック内の熾烈な戦いを勝ち抜きましたが、第4シードから準決勝・決勝まで勝ち上がることはできず、全道大会出場の権利を獲得できませんでした。

3年生の引退は、全道大会終了時となりますが、翌週にはハイジャパ本戦が控えていますし、国体支部予選や、連盟主催の一般大会への出場機会もあるので、各自の進路実現を第一に考えながら、挑戦してほしいと思います。そして何より、自分達の頑張りを後輩達に見せつけ、後輩達は、それに追いつき、追い越して欲しいと思います。



高体連集約大会までの軌跡と、これからの展望

新入生が9名も入部し、総勢18名の Team Nansho '23 が始動しています。

今年度は、ハイジャパ本戦への出場が決定しており、それに続く北海道インターハイへの出場も視野に入れながら、練習や大会に臨んでいます。大会結果だけを見ると、浮き沈みは否めませんが、少しずつではありますが、個々の力がペアリングに生かされ、各ペアの力がチームの力になりつつあります。集約大会までの日程が非常にタイトで、コンディショニングと学習（考査）の両立に苦慮していますが、頑張っています。

また、感染症対策の変更に伴い、各大会は有観客で開催となっています。体調管理に留意され、観戦・応援をしていただければ幸いです。



春季大会（4／30） 鴨川・今井ペア：ベスト 8

大塚・高木ペア：ベスト 16

旭川ミズノ杯（5／6） 森谷・猪股ペア：ベスト 8

鴨川・今井ペア、前川・田村ペア：ベスト 32

加盟団体（5／7） A/B チームともに予選リーグ敗退

選手権大会（5／13） 森谷・猪股ペア：優 勝

氏家・菅原ペア、大塚・高木ペア：ベスト 16

ハイジャパ本戦女子ダブルス出場権獲得! 【4 年ぶり 通算6 回目】

猪股 麗・森谷 柊月ペア

全十勝高等学校インドソフトテニス大会 第3 位入賞



北海道高等学校インドソフトテニス選手権大会 3 回戦進出【ベスト 32】



ハイジャパ北北海道ブロック予選大会 第5 位

【代表決定戦により本戦出場権獲得】



全国大会に出場することは容易ではなく、高くて、厚くて、堅い見えない壁を乗り越えなければならぬことを指導者として改めて実感しました。猪股・森谷ペアは、その壁を二人で乗り越え、北北海道代表として、全国大会のコート【苫小牧市緑ヶ丘公園庭球場】で戦う権利を獲得することが出来ました。

支部予選会からの状態を維持しながら本大会に臨みましたが、初戦からファイナルまでもつれる試合を制し、ベスト4を懸けた試合では、あと1ポイントで3位以上の入賞と、本戦出場確定までいきましたが、勝ちきれずに三つ巴の代表決定戦に進みました。気持ちが途切れることなく、初戦では、6-3から起死回生の大逆転で勝ち、続く最終戦も見事に抑え切り、最後までラケットを振り抜き、走り切りました。

本戦は、6/17【土】の予選リーグを経て、18【日】に決勝トーナメントに臨みます。受付・公開練習・開会式などの関係もあり、14【水】には苫小牧入りをしますが、それまでに、やるべきことをやりきりたいと思います。

これからアウトドアでの活動が始まります。Team Nansho' 23として全国大会出場ペアが起爆剤となり、益々活躍していきたいと思っておりますので、引き続き、応援よろしくお願い致します。

大会結果詳細については、北海道高体連ソフトテニス HP をご覧下さい。